

道徳 研究の概要

◇ 主題

状況を多面的・多角的に分析することを通して、
より善い判断や行為の在り方を吟味する授業

◇ キーワード

事実把握
判断メーター
グループ交流・検討



源田 洋平



◇ 育てたい生徒像

他者の判断や大切にしている
価値の多様性を認め、人間として
の在り方や生き方を考えながら、
より善い判断や行為の在り方を
問い続ける生徒

1 教材名 「学級会」(道徳自作資料選集1 井上治郎編 「エゴイスト」(加藤一雄)の一部を編集)

2 目標

河西の学級委員を辞任したいと申し出た行為の是非を検討することを通して、集団生活の向上のために、以下のことが大切であると気付くことができる。

- ・ リーダーは仲間の意見に耳を傾け、目的の達成に向けて、一人一人が活動に関われるように働きかけること。
- ・ フォロワーはリーダーの意図を理解することに努め、積極的にリーダーに協力し、活動にかかわっていくこと。

3 具体的な手だて

1. 事実把握させるための手だて

<手だてア>

河西と金沢の異なる立場から状況を分析するために、道徳的事実を把握させる発問を行う。

<発問1>

河西が学級委員をやめようと思ったのはなぜですか。

<発問2>

金沢が河西の学級委員辞任に反対するのはなぜですか。

<河西の立場から見た事実>

河西のリーダーとしての役割と責任をどのように果たそうとしているか、また、どのような困難を抱えているのか。

<金沢の立場から見た事実>

金沢のフォロワーとしての役割と責任をどのように果たそうとしているか、また、どのような困難を抱えているのか。

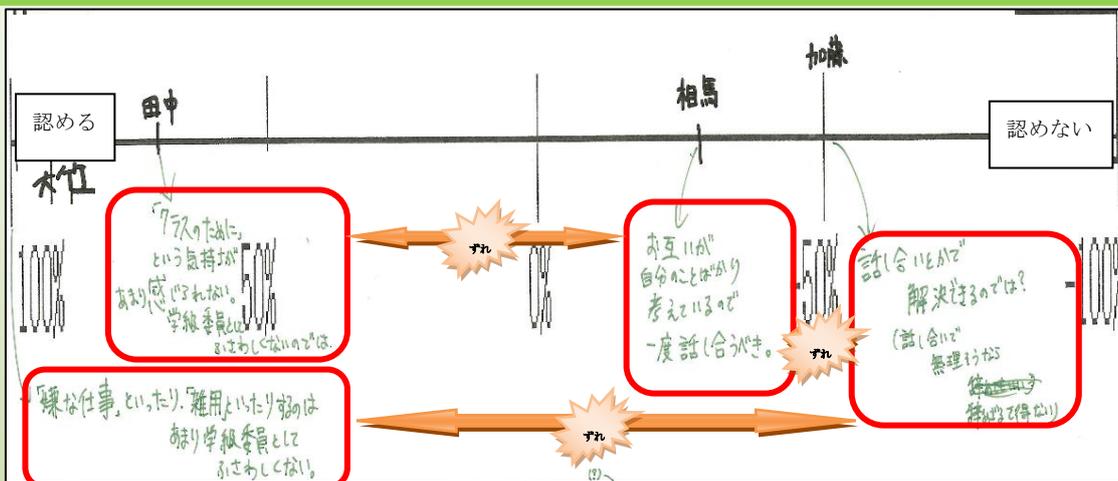
対立

異なる立場から見た事実を板書で構造的に示し、対立している問題点を把握する。

2. より善い判断と行為の在り方を吟味するための手だて

<手だてイ>

「ぼく、学級委員やめたいです。」という河西の発言を認めるか、認めないかの判断の根拠を、グループで交流・検討する活動を組織する。



判断の根拠を交流シートに視覚化し、仲間とのずれを明確にする。

<手だてウ>

学級の一員として、自分ならどのように発言するかを問い、その理由をグループで交流・検討させる。

<手だてエ>

今後の生活において、新たな価値をどのように生かすのかを問う発問をする。



自分の問題として受け止め、解決の方法を考える。



リーダーとフォロワーの役割と責任を内面的に自覚し、自分の生活へと適用させる。